

日本スポーツ栄養学会 第9回大会に参加して

環太平洋大学 体育学部体育学科

公認スポーツ栄養士 保科圭汰

2023年9月9日（土）、10（日）に龍谷大学瀬田キャンパスにて日本スポーツ栄養学会第9回大会が開催されました。滋賀県での開催は、2015年の第2回大会（立命館大学）以来となりました。会場に到着した際にはQRコードでのスムーズな受付、抄録集は事前にPDF版のダウンロードが可能になるといったコロナ禍を経て利便性の向上が図られていることを感じました。

1日目の特別講演では千日回峰行に関して、修行という観点から身体を保つための食事についてお話いただきました。千日回峰行では「歩く」という形態ですが、身体を酷使する点では激しいトレーニングを実施するアスリートと同様であり、大会メインテーマである「ゆりかごから墓場までのスポーツ栄養学」の通り様々な対象者にスポーツ栄養学をベースとした考えが必要であることを感じ取れる内容でした。

共催教育講演2では宮下政司教授から咀嚼が生理応答に及ぼす影響について、多くの知見から詳細にご講演いただきました。アスリートは食事や補食でゼリー飲料、その他にもガムを噛むなど多様な食品を摂取する場面があるため、咀嚼が身体に与える作用も理解し栄養サポートに応用する必要があることを認識できました。

また、10月2日（月）～11月13日（月）に設けられたオンデマンド配信での視聴となりましたが、学会企画2についても拝聴いたしました。実践活動報告 / 症例報告の執筆に繋げるためのマッチング企画から学会発表やショートレポートの投稿に至った流れについて、座談会形式でお話いただきました。スポーツ現場で栄養サポートを実施している中で得られたデータを学会発表や論文執筆に繋げることはスポーツ栄養学のさらなる発展に繋がることを改めて実感いたしました。

一般演題におきましても2日間を通して多くの口頭発表ならびにショートプレゼンテーションがありました。様々な観点からデータが検討されており、データ収集を行う際の参考となる発表が多かったです。また、私自身が栄養サポートを実施している選手と同様の競技に関する報告や他の競技であったとしても同様の課題を抱えている発表があり、今後の栄養サポートに活かすことができる情報を得られました。

今大会は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、初めての学会大会となり、制限のない状況での開催は4年振りとなりました。多くの方々と交流・情報交換させていただくことができ、充実した2日間となりました。

最後となりますが、現地開催とオンデマンド配信のご準備ならびに運営、SNSでの情報発信、スタンプラリー企画、フォトコンテスト、キッチンカーの出店など多岐にわたる取り組みにご尽力いただきました大会長の石原健吾教授、スタッフの皆様に御礼申し上げます。次回は第10回の節目となる学会大会のため、さらなる盛り上がりを楽しみにしております。